

第1回運営委員会議事録

日時： 平成20年6月25日(水)

場所： 名古屋大学医学部内

医系研究棟1号館 地下1階 大会議室

出席者：主任研究者(浜島信之)、三上春夫、田中英夫、鈴木貞夫、松井健志、渡邊能行、古野純典、田中恵太郎、嶽崎俊郎、有澤孝吉、江口英孝、玉腰暁子、松尾恵太郎、鈴木勇史、安藤亮介、小笹晃太郎、三谷智子、尾崎悦子、桧垣靖樹、新村英士、平佐田和代、川戸美由紀、深田裕子、近藤高明、大西丈二、堀容子、佐藤恵子、谷村雅子、久保充明、中央事務局(若井建志、内藤真理子、菱田朝陽、森田えみ、石田喜子、岡田理恵子、川合紗世、木村悦子、増田まゆ子、服部秀美) 計39名

1. 主任研究者より、研究協力者の募集状況、平成19年度・20年度(7月まで)の業務日程、名古屋大学医学部倫理委員会における研究計画の審査状況が報告された。
2. 中央事務局より、新規ベースライン調査を開始するまでには、研究計画の中央事務局への提出から約8ヵ月を要するので、新規開始予定のコーホート研究実施グループは早急に計画を立案するよう要請があった。
3. 中央事務局より、横断研究実施のため、横断研究対象者を含む集団のデータ入力およびデータクリーニングを本年10月末までに実施するよう依頼がなされた。
4. 中央事務局より、死亡小票閲覧許可前の死亡者同定、追跡調査情報の提出時期および提出形式について確認、依頼がなされた。また、がん罹患登録票の病期分類、進展度について検討し、病期分類、進展度は臨床・病理分類両方の情報を収集するよう、登録票の改訂を行うこととした。
5. 中央事務局より、死亡小票閲覧申請の進捗状況について、総務省の事前審査の段階であることが報告された。申請間隔についての質問に対し、全調査地区の申請が出そろうまで当面は毎年申請するとの回答があった。
6. 第二次調査について検討し、(1) 調査票のうち、病歴の部分はベースライン調査から第2次調査までの変化を中心に質問する(ただし調査票内では、受診医療機関は質問しない)。調査票の長さは長短2案を作成する、(2) 生体試料の収集はbuffy coatを収集しない点を除き、ベースライン調査と同様とする、(3) 第二次調査時の同意取得は第二次調査についてのみ行い、ベースライン調査時に同意が得られている他の点について同意撤回希望がある場合には同意撤回の枠組みで対応する、(4) 食物摂取頻度調査票について、J-MICC研究として妥当性研究を行うことも考慮する、を基本に中央事務局で手順書の案を作成し、さらに検討することとした。第二次調査時の同意取得に関しては、社会的諸問題検討委員会でも検討することとした。
7. 中央事務局より、コントロール検体の採血、保管、測定状況について報告された。
8. 主任研究者より、これまでのJ-MICC研究に関する論文発表、学会発表が報告された。
9. 主任研究者より、中央事務局に保管されているbuffy coatを用いた、生活習慣・検診結果と遺伝子多型との関連に関する横断研究のスケジュールが示された。本年8月末までに名古屋大学でDNAを抽出、

2009年1月末までに理化学研究所で遺伝子型決定を完了、同3月までに解析用データセットを作成する予定であることを確認した。

10. 九州大学予防医学分野とのJ-MICC連合について、連合の対象年齢は同コホートと同じ(49～76歳)とし、J-MICC研究本体と合わせて解析する際に、年齢範囲の差を考慮することとした。